



### Profile—岡田謙介

2009年、東京大学大学院総合文化研究科博士課程修了。博士（学術）。2012年より現職。2015～16年、カリフォルニア大学アーバイン校客員准教授。専門は心理統計学、ベイズ統計学。著書は『伝えるための心理統計：効果量・信頼区間』（共著、勁草書房）、『非対称MDSの理論と応用』（共著、現代数学社）など。

昨年度、カリフォルニア大学アーバイン校（UCI）で在外研究を行う機会に恵まれました。カリフォルニア大学システムには10の大学がありますが、UCIはその中でも新興の大学です。創立50年という決して長くない歴史の中で、3人のノーベル賞受賞者を輩出し研究大学としての地位を築いている点はわが国の大学のロールモデルにもなりうると思います。

アーバインはロサンゼルスから車で1時間ほどの郊外の街です。日本のつくば市と姉妹都市なのですが、大都会（東京・LA）からの距離感、大学や研究所が集まる新しい計画都市であることなど、たしかに似たところがあります。実は私自身も今回初めて訪れた土地で、受け入れていただいたマイケル・リー教授には7年前の学会で一度短く話したことがあるだけ、とくに知り合いもいない……という、やや無謀かもしれないスタートを切ったのが昨春でした。

UCIには認知科学科と心理学科の二つの心理系部局があります。

## アーバインの“Ame Otoko”

専修大学人間科学部 准教授

### 岡田謙介（おかだ けんすけ）

私の滞在した認知科学科はいわゆる理系の部局で、とくにベイズ統計学や数理心理学の研究者を世界有数の規模で揃えています。同僚の影響からか、必ずしも方法論が専門ではない脳やロボットの研究室でもごく普通にベイズモデリングを行っているのが印象的でした。私の大きな研究関心は心理データの生成メカニズムを反映したベイズモデリング、そして評価・予測にあり、研究関心を共有する人たちと日々気軽に話せる環境は本当にすばしかったです。外国に長期滞在するのは初めてで、滞在先を決める際にも迷ったのですが、これ以上ない選択だったといま振り返って思います。

もう少し日常の話を書いてみます。UCIでは、毎週火曜日の夜に学内パブでTriviaという2時間のクイズ大会が開かれます。参加費を1人\$2払ってチーム対抗でさまざまなクイズに答え、優勝チームが全体の2/3、準優勝が1/3の額をもらえます。いろいろな意味で日本の大学では難しいであろうイベントだな……と思いながら、1年間ほぼ毎週同僚や大学院生と参加しました。長らくテレビも持たず時流にからきし疎い私ですが、このTriviaに毎週参加したおかげでアメリカの文化やスポーツについても少しだけ門前の小僧となることができました。

日本からいろいろな人が来てくれたのは嬉しかったです。専修大学からは2回、別々の学生たちが来てくれました。1度目のときには一緒にロサンゼルス・エンゼルス

の野球を観に行きましたが、雨……。球場で2時間待ったあげく試合中止になってしまいました。南カリフォルニアは基本的に雨が降らない土地で、雨天中止はなんと20年ぶりの出来事だそうです。アーバインの人たちにもたいそう驚かれ、「雨男」という日本語をみんなに教えることになりました。2度目の学生たちが来たときは、ロサンゼルス・ドジャースの試合を観に行ったところ、なんとノーヒットノーラン！でドジャースが負けました……。

そんなこんなで、いろいろ笑える失敗もりましたが（字数が足りないのが残念です）、充実した1年を過ごすことができました。暖かく送り出してくださった専修大学の先生方、飛び込みの私を快く受け入れてくれたUCIの先生方に心からの感謝をここに記させていただきます。私も海外からでも来たいと思ってもらえるようなおもしろい研究をしたい、そうした研究室を作っていきたいという新たな目標ができました。



Triviaで優勝したときの記念写真。もっとも、英語力とポップカルチャー知識の双方の不足から、このラポメンバーの中で圧倒的に優勝に貢献していないのが私です。それを微塵も感じさせない「ドヤ顔」はアメリカで身につけました。